

令和 4年 9月

末田悠里子 学位論文審査要旨

主査 千 酌 浩 樹

副主査 山 崎 章

同 萩 野 浩

主論文

Specialized pro-resolving mediators do not inhibit the synthesis of inflammatory mediators induced by tumor necrosis factor- α in synovial fibroblasts

(特異的炎症収束性脂質メディエーターは、滑膜線維芽細胞の腫瘍壊死因子- α によって引き起こされる炎症性メディエーターの合成を阻害しない)

(著者：末田悠里子、岡崎亮太、舟木佳弘、長谷川泰之、石川博基、平山勇毅、乾元氣、原田智也、高田美樹、森田正人、山崎章)

令和4年 Yonago Acta Medica 65巻 111頁～125頁

参考論文

1. Resolvin E1 inhibits osteoclastogenesis and bone resorption by suppressing IL-17-induced RANKL expression in osteoblasts and RANKL-induced osteoclast differentiation

(レゾルビンE1は、IL-17による骨芽細胞のRANKL発現やRANKLによる破骨細胞分化を制御することによって破骨細胞成熟や骨破壊を抑制する)

(著者：舟木佳弘、長谷川泰之、岡崎亮太、山崎章、末田悠里子、山本章裕、矢内正晶、福嶋健人、原田智也、牧野晴彦、清水英治)

平成30年 Yonago Acta Medica 61巻 8頁～18頁

2. The efficacy and safety of reduced-dose sulfamethoxazole-trimethoprim for chemoprophylaxis of *Pneumocystis pneumonia* in patients with rheumatic diseases

(リウマチ性疾患患者におけるニューモシスチス肺炎予防のための低用量スルファメトキサゾールトリメトプリムの有効性と安全性)

(著者：原田智也、加藤竜平、末田悠里子、舟木佳弘、高田美樹、岡崎亮太、長谷川泰之、山崎章)

令和3年 Modern Rheumatology 31巻 629頁～635頁

審査結果の要旨

本研究はRA患者由来滑膜線維芽細胞を用い、腫瘍壊死因子(TNF)- α 刺激による炎症性メディエーター産生に対する特異的炎症収束性脂質メディエーター(SPMs)の効果とその機序を検討したものである。その結果、TNF- α 刺激で滑膜線維芽細胞における炎症性メディエーターの産生は増加したが、SPMsはこれを抑制しなかった。またTNF- α 刺激によりSPMs受容体発現に変化は認められなかった。次にTNF- α による炎症性メディエーターの産生増加にはp38リン酸化が関与したが、SPMsはこのp38リン酸化を抑制しなかった。このことが、SPMsがTNF- α による炎症性メディエーター産生を抑制しない原因の1つと考えられた。本論文は、滑膜線維芽細胞におけるTNF- α 刺激とSPMsの影響を詳細に検討したものであり、関節リウマチ治療におけるSPMsの位置づけを考える上で、明らかに学術水準を高めたものと認める。